

コンソーシアム・グループ活動記録

2006年1月11日(水) 10:00~14:30 於 慶應義塾大学

参加者 小野(東邦大学) 伊藤(立教大学)

内容

研究論文の構成について

研究論文の構成について各自の案を持ち寄り検討し、具体的な構成(章立)を決定した。

論文の体裁は、8頁から10頁とする(1頁 40字×40行)

<研究論文の章立て>

1 はじめに(1頁)

- ・序文
- ・今の日本のコンソの現状に簡単に触れ、日本のコンソの今後視点に据えた研究であることを示唆する
- ・TBLCの事例紹介をする必然性を明らかにする
 - ・Ohioなど他の事例紹介文献を踏まえた上で
 - ・コンソとしてどのような活動をしているか、だけでなく運営体制や予算などについても詳しい情報が欲しい
- ・この論文の概要紹介
 - ・TBLCの事例紹介
 - ・アメリカにおけるコンソへの補助金支出の仕組み
 - ・わが国のコンソ活動の特徴と課題を明らかにし、今後を考える

2 . TBLC(伊藤)(4~5頁)

- 2 - 1 . TBLCの概要
- 2 - 2 . 組織と運営
- 2 - 3 . メンバーシップ
- 2 - 4 . 主な利用者サービス
- 2 - 5 . メンバー館へのサポート
- 2 - 6 . 蔵書構築と蔵書管理
- 2 - 7 . 研修と情報交換
- 2 - 8 . 活動情報の共有と公開
- 2 - 9 . 予算

3 . 米国における補助金支出の仕組み(小野)(2~3頁)

- 3 - 1 . LSTA
- 3 - 2 . Strategic Plan(フロリダ州のプラン、TBLCのプラン)
- 3 - 3 . TBLCの補助金によるプロジェクト

4.まとめ(1頁)

- ・わが国の図書館コンソーシアム(現状と課題)
- ・提言
 - ・TBLC やアメリカの補助金事例に学びつつ、先行論文も引用しつつ)
 - ・図書館コンソーシアムを成功させるには
- ・図書館コンソーシアムの今後

執筆分担と今後の予定

上記の論文構成案の2の部分を伊藤、3の部分を小野が担当。それぞれの分担部分を1月27日までに執筆する。その執筆原稿をお互いに1月28日～2月3日の間にチェック作業を行う。この作業を経て、1(序文)、4(まとめ)の部分を執筆する。2月末に論文提出する。